

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ 東棟		
所在地	宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	平成26年3月15日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成26年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設11年を迎えスタッフもキャリアを積んできたことにより、ケアの質の向上に繋がっていると感じている。資格取得者もスタッフの半分を占めるほどになった。明るく、笑顔のある、楽しんで穏やかな生活の支援に努めている。季節ごとの行事が充実できるよう、またご利用者様一人ひとりが満足できるように細かいところまで目配りできるように努めている。出来る力や今を大切にし本人様の希望がかなうようにスタッフで支援している。昨年はターミナル支援に力を注ぎ利用者様の終焉に立ち会う機会にふれ沢山の学びをした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

*入所者がリビングのテーブルを囲みおしゃべりしている様子は、皆穏やかな表情で和やかな雰囲気になっており、一人ひとりが安心して過ごせる環境への配慮が見えた。また、毎日の献立・食材購入・調理・味付け・食器の後片付けなど、入所者が好きなこと・得意なこと・出来ることの能力発揮を促し、職員と一緒に楽しく生活ができるように支援されている。*外出の機会を多く取り入れ、日常的な散歩やスーパーへの買い物、ドライブや季節ごとに日帰り旅行等、楽しい暮らしの支援がある。*殆どの職員が「働きやすく楽しい職場」とっており、職員の離職率も低いことは、経営者・管理者の職員への配慮や育成する姿勢の結果と思われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	五つの理念を提示し、定期的に取り上げる事で スタッフ全員が常に理解し、共有、実践できるようにしている。	「自立支援」「心に寄り添う支援」「チームケアの提供」「環境づくり」「地域に定着したサービス」を理念として定め、毎月のミーティングで経営者・ホーム長が理念の解説を行い職員の行動規範としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校からの体験訪問受け入れ、雑巾贈呈、散歩時の挨拶や、夏祭りの交流の場の提供等にて近隣との交流を行っている。	開設から11年を迎え、日課となっているホーム周辺の散歩で、近隣住民とも顔なじみになっており、地域の一員としての自然な交流が出来る。また、火災訓練の協力依頼も、ホームからの声掛けに、気軽に参加してもらえる関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者の状況や出来事、支援内容について活動報告することで展開し進めています。又今年度は近隣住民の方へ向け認知症サポーター養成講座を開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当会議では定期的に行行政、地区会長、民生委員及びご家族の参加を促し、意見交換することで今後のサービス展開に心掛けています。	今年度の運営推進会議では、「認知症の人へのかかわり方」についてホーム長が委員に説明。委員からも「地域に向けて認知症の研修会を開催してはどうか」という提案があり、「認知症サポーター養成講座開催」の実施が2月に実現している。地域代表とホームの協力的な関係が見られた。	現在、運営推進会議は、約3ヶ月ごとに開催されているが、基準省令では、「2ヶ月に1回以上行うこと」とされており、2ヶ月ごとの開催が必要と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は毎月の報告実施、又担当者の方から入居者さまの現状について意見や質問を求められた時は、正確な内容を提供し協力関係を築いています。	運営推進会議には、市職員と包括支援センター職員が参加している。2月に実施した認知症サポーター養成講座では、包括支援センターとホームが協力して行っており、協力関係が出来る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する規範に基づき、又スタッフ全員が理解したうえで、玄関の施錠を含め拘束なきケアに取り組んでいます。	昼間は玄関と、2棟をつなぐ出入口、リビングの掃き出し口など、施錠されておらず、庭へも自由にでられる開放的な環境となっている。身体的・物理的な拘束以外に考えられる拘束について等、全体的な研修の実施も期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加やホームミーティング勉強会で理解を深め払うことで防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援や権利擁護の研修に参加してそれを職員へ伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときはホームの内、外を見て頂いて、契約時書類説明して不安のない様、質問を受け納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月新聞を出し、ホーム生活の情報を新聞や文章で報告し家族との交流は夏祭りやクリスマス会で意見交換会で本音を言っている。	毎月、写真を多く使用した「ホーム便り」を発行して、入所者の様子を家族に伝えている。毎年開催の夏祭りと、クリスマス会は、家族の参加を促し、入所者・家族・職員と一緒に食事を取り、意見・要望を聞く等、コミュニケーションをとる大切な機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで自分の意見、要望提案を出し、ホームの運営、利用者が生活される上でプラスになる様務めている。	2棟共、職員の自己評価では、「ほぼ全ての職員が生き生きと働いている」と評価している。また、職員の定職率も高いことから、働きやすい環境が整備されていることが伺える。職員面接から、上司に対して相談しやすいとの声も聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務上遅刻もなく、都合の悪い時は交代を申し入れ業務に支障のない様にしている。欠点が見られたら、ミーティングで注意し向上心を持って頂く。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には交替で参加して頂く。又自分から参加される方も多くミーティングで発表して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会等で情報交換し交流を持っている。さらに同業者との親睦をぐかめるため、ミニバレー大会のレクエーションに参加し交流を図った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に入居前のケアマネージャーさんから情報を得たり、ご本人より入居にあたり不安なこと希望等をお聞きし、新しい環境の中で安心して生活出来る様、寄り添いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、家族がどのような事で困られていたか、サービスに対する不安に耳を傾けホームで出来る事、家族に協力して貰うことを明確にしておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外のサービスとして訪問看護を週に一回健康管理として対応している。希望される利用者に週に1回、訪問歯科も提供されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の家事作業やレクリエーションを通して、得意分野やで力を発揮出来るように支援している。日常生活と同様に行っている。一部の入居者の方は役割意識を持ち意欲的に家事作業をされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々とも出来るだけコミュニケーションが取れるように努め、日頃の様子を詳しく話すように心掛けている。来訪時は体調や生活状況を報告し、毎月の新聞で皆様の様子を写真入りで報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への帰宅願望がある場合、家族と相談し、スタッフ同行で帰宅しゆっくり自宅で過ごせるように努めている。本人様の希望に添えるように、スタッフ皆と相談し帰宅する時間等を本人様と事前に決めて帰宅支援行っている。	希望に沿って入所者所有の栗畑や、自宅庭先まで出かけたたり、墓参りで花を備えたり、懐かしい場所・馴染みの人に出会える機会を大切にしている。入所者が、区長をしていた頃の知人がホームを訪問してくることもあり、馴染みの人の来訪を歓迎し、関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で会話や活動している時は見守りに対応し、入居者間でトラブルになりそうな時はスタッフが間に入り、関係が円滑に行えるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様を最後までお世話できるように心掛けている。ご家族の相談やご希望に添えるように努めている。退所後や亡くなられたご家族の来訪も今でも続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、ご家族の意向に考慮して、施設内での生活に迅速に対応し、また困難な利用者には、ご家族と共に協力し、日々の状態に柔軟に対応している。	入所者の状態を観察しながら、笑顔で問いかけを試み、手を摩ったり、音楽をかけたりして、入居者の心を和らげ、コミュニケーションを図り、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者の日常の状態を常に観察し、以前の暮らしぶりや意向を考慮し、モニタリングを行い、適切なサービスが提供できるように調節を繰り返しながら努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの出来ること、困っていることの把握に努め、日々の心身状態、有する力などを見極めと共に、機能低下に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にあたっては、利用者の日々の暮らし方やご家族の意見や思い、必要な関係者と話し合いを行い、作成にあっている。介護計画の説明時はご家族の思いを必ず聞くように努めている。	介護計画は、「食後の口腔ケア」「食事の摂取」「ゆっくりと楽しめる入浴」「安心して休める環境」を大切にサービス提供を意識して作成している。また、「本人の持てる能力を活かす」ことを大切に、計画に組み込むこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の日々の状態を各ファイルに記載し、共に職員間での連携を図り、早期改善、対応が出来るようにしている、又モニタリング、介護計画に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四季折々に行事を行い、各位様が楽しんで頂けるように支援している。正月初詣、梅の花見、花見、夏祭り、敬老会行事、運動会見学、クリスマス会等柔軟な支援のサービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に運営推進会議や地元の小学生との交流を開いている。キャラバンメイトを通して地元の方々にホームのあり方を共有して頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時や往診時等、ご家族に連絡し、納得された上で受診して頂いている。又他の病院も必要であれば紹介して頂いている。	入所者は全員、ホームの協力医を主治医としており、毎月1回往診を受けている。精神科・皮膚科・眼科等の専門医への受診は、家族が同行することとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変があった場合は、ホームの看護師を連携を図ると共に月2回の訪問看護で利用者様の状態報告をし、助言を受け指導して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が場所が変わった事で不安にならない様に、社長、ホーム長、職員が交代でお見舞いに行き安心して過ごせるように支援を行っている。ご家族と病院側と連携し早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを希望される子家族に対しては希望に添えるように、最後まで看取れるよう、スタッフ全員で話し合い支援している。ご家族も大変喜ばれていた。	入所者が重度化した際には、ホーム長が「ターミナルケア説明書」に基づいて家族に説明し、希望に沿って主治医・訪問看護と連携し終末期の支援を行っている。今年度は3人の入所者をホームで看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、初期対応は職員の格差はあるものの、その場にいる職員やホーム長と連絡を取り合い緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度は避難訓練をし、定期的な点検をして頂いている。消防署や地域住民との連携を図り協力体制を築いている。	今年度は、9月と3月に火災避難訓練が計画され、3月は消防署の立会いを要請している。また、定期的なスプリンクラーの点検も実施している。火災避難訓練には、近隣住民の参加も得られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を一個人として尊厳しプライバシーを守りホーム内に笑い声が絶えず、近隣の方が立ち寄りあたたかいホームであるように努めている。	理念に掲げられている「自立支援」「心に寄り添うケア」を実践するために、今ある能力を活かし、その人らしさを大切にケアの提供に努めている。	理念を実践することで、「一人ひとりの尊重」は実現されると考えられるが、「人格尊重」や「誇り」の意味することについて、じっくり考え、職員で話し合う機会を持つことで、より理解が深まると思われた。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご本人が自己決定できる環境づくりと、自己決定不可能な方より家族への希望や自分が思っている言葉が聞かれたら代弁して説明している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の事で自分で頭に入れておられ、言わなくても玄関先やホームの周りの草とり等して下さっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の気に入ったものを着られているが重ね着が多く外出時は減らして外出して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを囲んで各自の自慢の料理を聞いて作り方を聞き出している。昼、夕食時は手伝って一緒に作る。	前もって献立は立てず、毎日、職員と利用者が一緒に考え、スーパーへ食材購入に出かけており、家庭的な雰囲気ですぐ美味しい手作り料理が提供されている。日帰り旅行には手作り弁当を持参し、お花見弁当は注文したり、天気の良い日は、ホームの庭でバーベキューを楽しんだり、気分を変えて美味しい食事を楽しむ支援が日常的に行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分量はまだまだ不足していると思う。味を変えた飲み物、形を変えた物等考慮して1500ccに努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの必要性を理解し、声かけと介助の方へは十分に支援するように努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに独りで行かれる方は布パンツ使用、又場所が分からず徘徊される方へも布パンツを使用してトイレ誘導を行っている。	入所時は、排泄のタイミンが分からなかった人も、細やかに動作を観察し続けてパターンの把握に努めている。食事前後に、その人にあつたトイレ誘導を行い、布パンツ使用で、心地よい排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の摂取や特に根菜類に努めている。又飲み物を体調に合わせて変えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	利用者様の好みに合わせてのお湯の温度調整やゆっくり入れように、気を配り入浴支援している。	入浴は一日おきを基本とし、入浴時間や湯温は希望に沿って、ゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。菖蒲湯やゆず湯も入所者の楽しい行事となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、畳の上で過ごして頂いたり、傾眠されている方には、声かけて居室で少し横になって頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は必ず日付、氏名等を確認した上で本人に手渡し、中には確実に飲み終える迄見守り服薬の支援している。本人の状態変化見られた時は記録しかかりつけ医に報告し指示が貰えるようにしている。副作用については薬説明書に目を通し把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前農家を営んでいた利用者様の買い物だ同行時は、野菜を選んで頂いたり、タバコ等も本人の要求に合わせて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日はできる限り散歩に行くように努めている。車いすの方も同行して頂いている。また食事会等で外食されることもある。	ホーム周辺の散歩や、スーパーへの食材購入は日課となっている。季節ごとに日帰り旅行を計画し、家族の協力も得ており、今年度は人吉・天草・阿蘇まで出かけている。また、天気の良い日は、社長の声かけで、利用者が交互に気軽にドライブに出かける機会も多く、外気を楽しみ、季節を感じる支援が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力に応じ、ご家族が小遣いとして渡しておられ、日帰り旅行やドライブ、買い物同行時に本人様が欲しいもの、必要なものを自由に購入しておられる。持って折られるお小遣いの残金を考えながら節約し使っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話要求があれば取り次ぎして会話して頂く、手紙も書かれたら必要な所は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアー装飾には、季節時応じて写真を提示したり、毎月の新聞便りを提示したりして四季を味わって頂いている。照明は適度な明るさを保ち快適に過ごして頂く。転倒を防ぐため、不要なものは行いように心掛けている。	東棟・西棟、共に木造平屋造りで、リビングの天井を高くし程よい明るさとなっている。日中はソファで寛いだり、テレビを見たり、食事の支度を手伝ったり、少し距離を置いて新聞を読む等、それぞれ自由。家庭的で穏やかな暮らしを、さりげなく支えるスタッフの配慮が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの意思を尊重し、見守りにて対応行っている。一人で過ごされる事を希望される利用者様に関しては、孤立されないように、スタッフとの会話等で安心できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の要望があれば、家族に連絡して安心してすごして頂く。友人が面会に来られ世かな一人部屋でとの声も聞かれた。	家具等の持ち込みは多くないが、テレビやラジオ、仏壇や夫の遺影、整理棚など、其々の暮らし方に沿った部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレは認識しやすいように明示してある。手すりが必要な所には設置しており、安全に生活できるように配慮してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ 西棟		
所在地	宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	平成26年3月15日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成26年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設11年を迎えスタッフもキャリアを積んできたことにより、ケアの質の向上に繋がっていると感じている。資格取得者もスタッフの半分を占めるほどになった。明るく、笑顔のある、楽しんで穏やかな生活の支援に努めている。季節ごとの行事が充実できるよう、またご利用者様一人ひとりが満足できるように細かいところまで目配りできるように努めている。出来る力や今を大切にし本人様の希望がかなうようにスタッフで支援している。昨年はターミナル支援に力を注ぎ利用者様の終焉に立ち会う機会にふれ沢山の学びをした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	五つの理念を提示し、定期的に取り上げる事で スタッフ全員が常に理解し、共有、実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校からの体験訪問受け入れ、雑巾贈呈、散歩時の挨拶や、夏祭りの交流の場の提供等にて近隣との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者の状況や出来事、支援内容について活動報告することで展開し進めています。又今年近隣住民の方へ向け認知症サポーター養成講座を開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当会議では定期的に行行政、地区会長、民生委員及びご家族の参加を促し、意見交換することで今後のサービス展開に心掛けています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は毎月の報告実施、又担当者の方から入居者さまの現状について意見や質問を求められた時は、正確な内容を提供し協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する規範に基づき、又スタッフ全員が理解したうえで、玄関の施錠を含め拘束なきケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内勉強会にて全職員理解を深め、情報交換を行うことで虐待が見逃されないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は市の研修会等へ参加し理解を深めて活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときはホームの内、外を見て頂いて、契約時書類説明して不安のない様、質問を受け納得を得ている。又ホーム内、外の見学に安心して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族面会時に利用者の状況を伝えると同時に、要望、意見提案しており、家族との交流は夏祭りやクリスマス会で意見交換会で本音を言っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで自分の意見、要望提案を出し、その場で対策検討のうえ運営及び利用者の生活改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による評価、人事考課、面談にて賞与等へ、努力評価反映している。又資格取得による手当を支給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区の研修、勉強会への参加提供市、スキルアップを図っている。内容についてはミーティング内発表にて情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会等で情報交換し交流を持っている。さらに同業者との親睦をぐかめるため、ミニバレー大会のレクエーションに参加し交流を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に入居前のケアマネージャーさんから情報を得たり、ご本人より入居にあたり不安なこと希望等をお聞きし、新しい環境の中で安心して生活出来る様、寄り添いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、家族がどのような事で困られていたか、サービスに対する不安に耳を傾けホームで出来る事、家族に協力して貰うことを明確にしておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外のサービスとして訪問看護を週に一回健康管理として対応している。希望される利用者に週に1回、訪問歯科も提供されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の家事作業やレクリエーションを通して、得意分野やで力を発揮出来るように支援している。日常生活と同様に行っている。一部の入居者の方は役割意識を持ち意欲的に家事作業をされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々とも出来るだけコミュニケーションが取れるように努め、日頃の様子を詳しく話すように心掛けている。来訪時は体調や生活状況を報告し、毎月の新聞で皆様の様子を写真入りで報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み親しまれた家具や仏壇を使用して頂いている。又馴染みの人や品物を提供支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で会話や活動している時は見守りに対応し、入居者間でトラブルになりそうな時はスタッフが間に入り、関係が円滑に行えるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所ご通夜や葬儀に出席したり、転院後もお見舞、挨拶に行き、良好な関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が購入したいものがあれば、希望される時は職員と一緒に買い物へ同行し、ご本人の希望に添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やケアマネから情報を頂いたり、日頃の本人様との会話の中で生活歴等を詳しく把握し、その人らしい暮らし継続が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や心身状態の把握については出来ていると思う。又本人のペースやこだわりを大切に持てる力を得意分野で発揮して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや6ヶ月に毎に見直しケアプラン作成前にスタッフのモニタリングにより課題を考察し観察の結果を反映させると共に入居者及びご家族の要望、思いの変化を来訪時にお聞きして介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員が情報を共有できるように日々の様子やケアの実践等を個人記録に記入している。ミーティング時に情報交換したり、申し送り簿の活用で情報交換共有し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人から要望があれば外出や買い物等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に運営推進会議や地元の小学生との交流を開いている。キャラバンメイトを通して地元の方々にホームのあり方を共有して頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時や往診時等、ご家族に連絡し、納得された上で受診して頂いている。又他の病院も必要であれば紹介して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護、看護、職員間の情報提供共有と共に早期発見に努め、訪問看護やステーション、かかりつけ医と提携して24時間相談できる体制を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換にて良い方向に務める共に本人、家族との話し合い、入院にりよる機能低下等見られる場合は早期に以前の生活に戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾病やターミナルについては方向性を家族と話し合いながら訪問看護、かかりつけ医、家族と連家いを図りながら日常生活全般をスタッフで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて定期的な初期対応の勉強会、訓練を行っている。実際事故発生時、応急マニュアルを元に適切な対応が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度は避難訓練をし、定期的な点検をして頂いている。消防署や地域住民との連携を図り協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を一個人として尊厳しプライバシーを守りホーム内に笑い声が絶えず、近隣の方が立ち寄りあたたかいホームであるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物希望や入浴の順番等 利用者の意思、意向を尊重し決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を考慮したケアや意向や思いを優先し、その人のペースに合わせ毎日が楽しく穏やかに過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、自分でできる化粧水等、誤飲むされるおそれがある為、職員で預かり、訴え時に提供しその人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者と一緒に野菜の材料きり行い。また食器洗いも利用者が率先して行って頂く職員と一緒にご本人のペースを大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全スタッフで情報を共有し栄養バランスを配慮した偏らない献立、食欲をそそるような色合い、盛り付けを工夫している。体調にあわせ、ミキサー食、トロミ食、捕食ゼリー等の提供支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時、歯ブラシをかむなどの行為みられたときは指ガード使用して残存物が残らないよう清潔保持に努めている。自分でできる方はモンダミンでのうがいを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用することで、排泄パターンを把握し、本人の動作、言葉からトイレ誘導を行っている。本人の動作、言葉からトイレのサインを見逃さず、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、ラジオ体操を取り入れ、体を動かしたり、お通じの良い野菜や果物、ヨーグルトなどの提供を心掛けて入る。又水分補給にも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望する順番、タイミングをお聞きし入浴支援を行っている。お風呂に入って気持ち良かったと思って頂けるように一人ひとりに合わせた支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室で1時間休まれたり、また夜間帯は2時間毎の巡回時にエアコン使用にて気持ちよく休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は必ず日付、氏名等を確認した上で本人に手渡し、中には確実に飲み終える迄見守り服薬の支援している。本人の状態変化見られた時は記録しかかりつけ医に報告し指示が貰えるようにしている。副作用については薬説明書に目を通し把握するように		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを提供して他者のために役に立っていると思って頂ける支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事や催しはご家族の協力を得てほとんどのご家族に参加頂いている。日常的に散歩、dpライブ、買い物同行での外出を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者は小遣いとして所持しておられる。自由に買い物同行時はご希望のものを購入して頂いている。他の方は必要な物を職員同士で相談し購入し出納帳へ記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より電話は随時取り次いでいる。又ご本人より希望の際は支援行い安心して頂いている。又手紙のやり取りも自由に出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー装飾には、季節時に応じて写真を提示したり、毎月の新聞便りを提示したりして四季を味わって頂いている。照明は適度な明るさを保ち快適に過ごして頂く。転倒を防ぐため、不要なものは行いように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの方と一緒にTVを見たり談笑されたり、出来る空間の整備うあお一人でゆっくり過ごされる方へは自室にてTVを見たりラジオを聞かれたり出来るように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際、慣れ親しんでこられた家具をご家族から用意して頂き、自宅にいるような気持ちで過ごして頂ける様にしている。足りないと思われるものはご家族と相談し検討するようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレは認識しやすいように明示してある。手すりが必要な所には設置してあり、安全に生活できるように配慮してある。居室にも本人様の写真や名前をドアに提示している。		